

1. 日本文化としての旭日旗

旭日旗の意匠は、日章旗同様、太陽をかたどっている。この意匠は、日本国内で長い間広く使用されている。

今日でも、旭日旗の意匠は、大漁旗や出産、節句の祝いなど、日常生活の様々な場面で使われている。



日本文化と旭日旗



『善悪児手拍』より
「清盛入道」 安達吟光, 1885



「福神江の嶋もうて」
落合芳幾, 1869

市民生活と旭日旗



大漁旗を掲げながら
帰還する避難漁船
(福島県浪江町・請戸漁港)
(2017年, 共同通信提供)



北海道新幹線の開通
を大漁旗で祝う人々
(2016年, 共同通信提供)

参考

●加藤官房長官記者会見 2021年5月18日午前 (抜粋)

旭日旗について申し上げます、その意匠は日章旗同様、太陽をかたどっており、大漁旗、出産・節句の祝い旗等、日本国内で現在までも広く使用されているものであり、特定の政治的・差別的主張である等の指摘は当たらないものと考えております。政府として、韓国を含め国際社会に向けて、このような旭日旗の掲示が政治的宣伝にならないという考えを累次の機会に説明しており、今後ともそうした説明を継続していきたいと考えております。

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg22653.html>



2. 自衛隊の公式な旗としての 海上自衛隊の自衛艦旗と陸上自衛隊の自衛隊旗(連隊旗)

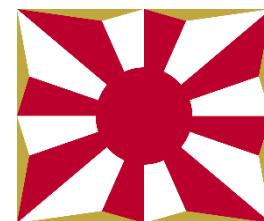
海上自衛隊の自衛艦旗及び陸上自衛隊の自衛隊旗(連隊旗)は、1954年に制定された自衛隊法施行令により、旭日の意匠を用いることとされている。

制定以来、自衛艦旗及び連隊旗は国内外の様々な場面で掲げられてきている。

これらの旗は、これまで半世紀以上にわたり、自衛艦または部隊の所在を示すものとして、不可欠な役割を果たしてきており、国際社会においても広く受け入れられている。



海上自衛隊
自衛艦旗



陸上自衛隊
自衛隊旗(連隊旗)



2019年
中国で行われた国際観艦式に際し、
青島港に入港した海上自衛隊の艦艇



2018年
パリで行われた軍事パレードに参加した
陸上自衛隊の部隊(シンガポール軍と共に)



1998年
韓国で行われた国際観艦式に際し、
釜山港に入港した海上自衛隊の艦艇

世界で広く使用されている旭日のデザイン

太陽から光線が放たれる旭日のデザインは、日本特有のものではない。北マケドニア共和国国旗，アリゾナ州（米国）州旗，ララ州（ベネズエラ）州旗など，類似のデザインが世界で広く使用されている。



北マケドニア共和国国旗
(1995制定)

<https://www.vlada.mk/?ln=en-gb>



アリゾナ州旗
(1917制定)

<https://az.gov/>



ベネズエラ・ララ州旗
(1901制定)

<https://lara.gob.ve/home/>